

地域社会との緊密な連携を築こう

～地域全体で、植田を愛し植田を大切に作る子どもを育てる～

豊橋市立植田小学校 P T A

1 学区及び学校の概要

植田小学校は、豊橋市の南に位置し、校区には豊橋鉄道渥美線向ヶ丘駅と植田駅がある。キャベツ畑や水田、製乳工場、精密機械工場などの暮らしを支える産業や企業が身近に立地している。全校世帯の約 21% が 3 世代・4 世代・親戚同居のいずれかであり、地域のかたがたが子どもたちの成長を支えていこうという気風が色濃く残っている。校訓「まじめ力いっぱい～命を尊び、心豊かに、たくましく生きる児童の育成～」のもと、地域の教育力を生かし、温かな雰囲気のもとで日々の教育活動を行っている。

2 研究のねらい

P T A が地域と連携し、子どもたちが心豊かに過ごすことができるよう、学校行事や地域行事の支援を行うことを通して、地域のかたがたに大切にされている自己に気づき、地域の人や事物のよさを認識し、植田を愛し大切にしていこうとする子どもを育てたい。

3 研究の仮説

P T A と地域が協力し、さまざまな人との交流や地域とかかわりのある行事などを行っていけば、地域のかたがたに大切にされている自己に気づき、地域の人や事物のよさを認識し、植田を愛し大切にしていこうとする子を育むことができるだろう。

4 研究の方法

P T A と自治会が協力して、学校と家庭と地域の三者が連携・協働し、さまざまな人との交流や地域とかかわりのある行事などに、子どもたちが参加する環境を整える。行事を通して、子どもたちの「植田ってよいところだなあ。植田が大好き。植田を大切にしていこう。」という気持ちが大きくなっていったかどうかを行事ごとの感想から検証する。

5 研究の実践

(1) 0 のつく日の登校見守り活動と南稜校区交通安全対策協議会

毎月 0 のつく日に本校の卒業生が進学する南稜中学校と校区内の小学校の職員・P T A・校区諸団体が、子どもたちの登下校を見守っている。

また、年 3 回南稜校区交通安全対策協議会を南稜中学校区の学校職員・P T A 役員・自治会関係者・警察官が校区内の交通事故事例や危険箇所等について情報交換を行い対策を協議している。協議の結果は、学校や地域での指導や交通安全対策に生かしている。



見守りのおかげで安心して登校できます

(2) 植田校区夏祭り

高齢化が進むのは植田校区も例外ではない。植田校区自治会の文化協会委員が中心となって行ってい

た植田校区夏祭りの運営が体力的に負担になってきたとのことだった。そこで、令和5年度から植田小学校PTA・南稜中学校PTA・植田保育園父母の会がかき氷やヨーヨー釣りなどの屋台店の準備運営を積極的に行っている。調理が難しいものはキッチンカーを依頼し、レンタルグッズの活用で準備の負担軽減を図るなど、子どもたちをはじめ来場者が喜ぶ新しいアイデアで夏祭りの運営にかかわっている。



夏祭りにはたくさんの屋台があって楽しいね

植田小学校の子どもや中学生になった植田小学校卒業生が大勢ボランティアとして積極的に祭りに参加し、アナウンスや太鼓、準備や片づけを担った。「中学生になったら植田夏まつりを手伝いたい」「ジギスカンを踊れる大人になって植田夏まつりを盛り上げたい」という気持ちを抱く子がいた。自治会のかたは、「小学生の放送や太鼓演奏が祭りに彩りを添えた」「中学生がよく働いてくれた」と満面の笑みだった。子どもたちは、地域のかたとかわりながら感謝し感謝されることで、植田校区の役に立つことができたという自信や誇りをもつことができた様子だった。

（３） 持ち寄り資源回収

コロナ対策として持ち寄りでの資源回収を行いはじめたところ、PTA会員から「これなら負担が軽減され今後も資源回収を続けていくことができる」と好評であったため、持ち寄りという形で継続している。地域のかたがたは、植田小学校の子どものためにと段ボールや新聞等を持ち込んでくださる。また、植田校区内の工場や医院、商店などが段ボールを回収に出して協力してくださる。回収された資源回収の収益金は、マラソン大会後の飲料購入や地域講師を招いたクラブの補助などに活用され、子どもたちは地域のかたの厚意に感謝している。

（４） P T Aと植田校区健全育成会共催による教育講演会

自分の住んでいる地域についてより深く知り、地域に愛着をもってほしいという願いから、豊橋市美術博物館副館長高橋洋充氏をお招きしてPTA教育講演会「豊橋の城～南稜校区にも城があった～」を6月に行った。植田校区健全育成会と共催し、地域のかたにも参加していただいた。「城に関係する地名が植田校区にたくさん残っているのを初めて知った」という感想が聞かれた。



南稜校区にも城があったんだね

6 研究の考察

PTAが学校や地域と連携し協働することで、子どもたちの活動の幅が広がるとともに、子どもたちが安心して地域や学校で成長することができていると考える。「とても暑いのに、夏まつりで友達と交流をする場を作ってくれてありがとうございます」「資源回収で得た大切なお金を私たちのために使ってくれてありがとうございます」と、地域の人の思いを感じ取り、感謝をする児童の声が多く聞かれた。

7 成果と今後の課題

大きなイベントである植田校区夏祭りであるが、小学校内のことをよく知っている卒業生が積極的に片づけを担ったので、地域のかたやPTAの負担を抑えることができた。今後も互いが得意な分野で知恵や力を出し合って負担感を減らしつつ、植田を愛し大切にする子どもを育てていきたい。